

令和5年度 第3回勝山市総合行政審議会
議事録

日時：令和5年11月16日（木）19：00～

場所：勝山市役所3階 第1会議室

1. 開会

会長あいさつ

2. 議事

(1) 第2期勝山市地方創生総合戦略 進捗状況について

4つの「守る」福祉・健康

政策目標1 いくつになっても元気で暮らせるまち

意見なし

政策目標2 スポーツを楽しみ健康な心身を育むまち

No.4.2 誰もが楽しく取り組める生涯スポーツの普及

委員 ニュースポーツを勝山でどれくらいの人が行っているかデータは持っているか。

事務局 担当課に確認しないと分からない。

委員 スポーツを普及・推進する中で、部活動の地域移行といったこともあり、競技者が分散すると大変だと思う。スポーツ少年団などは子どもの数が少なくなってきており統合するところもあると聞く。子どもだけではなく、高齢者のスポーツ団体もまとめられるところはまとめていった方が良い。また、全体のスポーツの分布図があると分かりやすいし、ニュースポーツをはじめみんなが取り組める生涯スポーツについて応援しやすいのではないかと思う。

No.4.4 スポーツへの興味関心を高めるための取組みを実施

委員 町民運動会はこの分野に入るか。

事務局 どちらかという地域づくりの分野になると思うが、ご意見を伺いたい。

委員 全体的に高齢化しており、どの地区も選手集めに苦労していると聞いた。運動会は参加したいものではなく、しんどくて大変なものというイメージがついている。そうではなく皆が楽しめるような運動会になれば良いと思う。地区によっては運動会を小学校と一緒にやっているところもあるので、市で統一した方が良いと思う。

委員 福井市は町民運動会を小学校の行事と合体して実施している。小学生を巻き込んでやることで参加率は良いと思う。コロナ禍で中止となった年もあったが、競技数を減

らして1日開催を半日開催といった形にして、工夫してされている。

委員 勝山も多くの地区で小学校と一緒に運動会をやっている。旧町内は規模が大きいので小学校単位ではやっていない。

委員 村岡地区は町民運動会とは別に地区ごとに運動会を行っている。

委員 旭町も地区対抗運動会がある。

委員 どうしていくのかは地区で協議が必要になると思うが、スポーツを推進していく上で、変に重なっていると嫌になる部分もあると思うので、集約できるところはしていった方が良い。

委員 運動会はスポーツ推進だけではなく、地域住民のコミュニケーションの場も担っている。

事務局 地区運動会は地区がどうしたいかという意向が一番優先される。市はそれをサポートしたいと考えている。運動会の統合なども今後考えられると思うが、皆が楽しんで参加できるという方向に進めていけたらと思う。

政策目標3 住み慣れた地域で誰もが安心して暮らせるまち

No.47 高齢者や障害者など様々な人の暮らしを支援

委員 高齢者や要介護者、要支援者の名簿については、個人情報の関係で取扱いが厳しく、なかなか開示されてないと思う。地区で支援が必要な人を募るのは良いが、本当に支援が必要なのか、名簿が正確なのか分からない。実際に災害が起こった時、どのように行動すればよいのか把握できていない。非常時には区長を通して動くなどできるので、出来る範囲で情報提供していただけないか。

委員 どこも同じような課題があり、個人情報保護法の中でどこまで情報を共有できるのかという問題はあると思う。民生児童委員や福祉委員の方からもよくそういった声を聞く。どの程度情報を共有し、活用していけるのかというガイドラインがあると良いと思うが。

委員 国が各市町に対して要支援者の個別支援計画を義務付けている。勝山市は名簿を作成しているが、個別計画までは作成できていない。本来なら、支援を必要とする人が、普段どこにいて、災害時には誰がどのようにして避難させるかというところまで計画を作らないといけない。それができないと上手く共有は出来ないと思う。

事務局 おっしゃる通りで、要支援者の個別の計画までは作れていない。要支援者の名簿は毎年区長に依頼して更新をしている。民生委員からの要望で情報提供する場合もあるが、区長から民生委員への個人情報のやり取りは出来ないなので、総務課が中心となりながら連携していく必要がある。

4つの「守る」産業・経済

政策目標1 多くの観光客が訪れる豊かで活力あるまち

重要業績評価指数について

委員 福井県と石川県では、観光客がお金を落とす金額が全く違う。特に勝山市は滞在時間が短いし、お金を落とす場所が少ない。経済効果がほとんど得られない中で、今後どうしていくのか。もう少し産業、経済につながるように考えているのであれば、実績を数値化して評価指数にすることは検討しないのか。

事務局 市では金額的なところの着眼点がなかった。評価項目を作成する際に、金額を掴むのが難しくパーセントや人数を比較対象とする指標とした。今後新幹線が福井開業する中で、市内に宿泊が少なく、経済効果が少ないことは課題として捉えている。今後、経済効果という観点でも事業を展開していきたい。

委員 JTBの人に話を聞くと、お金を落とせる観光地が人気だと言う。勝山市観光まちづくり会社と協力しながら実施するのであれば、実態を把握して進めていった方が良い。数値化するのは難しいが、着眼点を変えると実績が伴ってくるのではないかと思う。例えば、民泊やホテルを増やすことにも取り組んでほしい。実際に市の方で宿泊を増やしていく方向生なんだと見えてきたら、やる人も増えると思う。実績ベースから逆算して、実態と照らし合わせて足りないところをやっていくというようにすると良い。

委員 県立大学の経済学部で経済波及効果を計れる人がいると思うので、専門家に見てもらっても良いと思う。観光経済学を専攻している人もいるので、ぜひ県立大学も活用していただきたい。

委員 越前大仏の門前町を活用する予定はないのか。

事務局 越前大仏の門前町については、詳しいことは申し上げられないが、市が入っていくにくい状況にある。

No.5 4 インバウンドの推進

委員 インバウンドの対応として案内看板の英語表記については取り組まれる予定はあるか。

事務局 多言語化としては、日本語、英語、中国語、韓国語の4カ国語が一般的であるが、現在の表記をすべて多言語にすることは難しいので、例えば漢字にふりがなをふるということでも対応できるかと考えている。案内看板については、主要な看板が勝山駅や平泉寺など数か所にあるので、今後対応を検討していきたいと思う。

委員 アジア圏の人に対するインバウンドについては、例えば、黒部立山は台湾人の憧れの観光地であるようで、雪が魅力的であるようだ。以前、台湾から来た人を恐竜博物館に案内したが、博物館よりも近くにあった小さい雪のゲレンデに喜んでいて、そり滑りを楽しんでいた。台湾やシンガポール、インドネシアなど、雪が降らない国の富裕層に

向けては、雪が大きな観光資源だと思う。

委員 先日、夕方の暗い中、勝山郵便局の付近をキャリーバッグを引きながら歩いている観光客がいたので、この時間帯のタクシーはどうなっているのかと思った。また、10月終わりの土曜日の10時頃に勝山駅にいたら、電車を降りて恐竜博物館行きのバスに乗る人がいたので、数えてみたら19人もいた。電車を利用して来る人も沢山いるので、観光客の対応として駅からの交通手段が課題だと思う。

事務局 確かにタクシーについては、夜間は1台しか運行していない状況で、需要と供給が合っていないとは思っている。

委員 自分の会社に京都外国語大学の学生が2ヶ月インターンで来ており、バスを利用している。バスの本数がないので、インターネットで地図を検索して移動していると言っていた。また、熊が出始めたので移動できない区域や時間帯があることも不便そうだ。観光地に行くにはあまり問題ないと思うが、生活圏であるまちなかに行ったら移動できないのは、車を持たない者にとっては不便だと思う。

今後、インバウンドや移住を推進していくのであれば移動について見直した方が良いと思う。バスの本数を増やすのは費用対効果の面で難しいと思うし、様々な面で大きな問題があるとは思いますが、ぜひ取り組んでいただきたい。

例えばバスの路線をマップ化してはどうか。また、案内マップがまちなかにないので、あった方が良いが、看板を新規で作るのが難しいと思うので、案内マップや路線マップをSNS等で発信するなど、いつでも見れるようにすると良いのでは。

事務局 バスの路線は複雑になっており、全てをマップ化するのは難しいが、代表的な路線をマップ化してインターネットに掲載するのは良いと思う。夜間のタクシーについては、利用者も少ない状況なので、利用者がある程度いないと事業者としては増やすのが難しい。市内の動線の方はフルデマンドバスを進めていく方針なので、日中はこれで対応していきたい。

委員 観光客向けの移動手段としてレンタサイクルもあると思うが、金沢のレンタサイクルはおもしろかった。観光拠点で借りることができて、次の拠点に行かないといけないう、域内の移動を促進するようなくみになっていた。

事務局 レンタサイクルは、勝山駅とゆめおーれ勝山にあるが、あまり知られていない。勝山は坂が多いので自転車での移動は大変かもしれない。

委員 えちぜん鉄道も自転車の管理は大変だと思う。勝山駅の駐輪場には放置自転車が多い。おそらく電車を利用して通学していた高校生のもので、卒業後そのまま放置されているものが多いと思うが、対応が大変だろうと思った。

事務局 勝山駅の放置自転車については、今年度えちぜん鉄道に依頼され対応したところである。

No.5 7 企業誘致と合わせたU・Iターン者の増

事前意見 市として、幅広い業種の企業を誘致したいとのことだが、優先的に誘致したいと考えている業種はあるか。

事務局 市は観光の産業化を掲げており、業種の指定はないが、観光の発展や観光誘客の促進につながる企業に来ていただくとありがたいと考えている。

事前意見 「恐竜渓谷かつやまエリア」以外で、企業を誘致するエリアはあるか。

事務局 市として企業誘致しているエリアは他になく、民間事業者の中でのお話になると思う。

事前意見 U・Iターン者に対する助成金の案内が、転入時にされている場合とそうでない場合があると聞く。市内に就職する場合は、転入後数か月経たないと申請ができないため、申請を忘れてしまう場合も多いと思う。制度をしっかりと活用してもらうために、転入後半年後に改めて助成金の案内をしてはどうか。

事務局 おっしゃる通りだと思うので、担当課とも共有して対応していきたい。

委員 私は県の移住サポーターをしているが、各市町では今年度から2名ずつ配置されている。実はまだ相談実績がなく、サポーターとしての市での立ち位置も分からない状況である。市との協力体制ができておらず、どこまで踏み込んで良いのか分からない。今は自分でSNS等で県外の方に発信して、自分で相談を受けるといった形になっている。地域おこし協力隊の方の活用もしていただければ良いが、移住サポーターの事も知っていただき活用してほしい。移住者同士でしか話せないこと、相談できないこともあると思うのでぜひ活用してほしい。

事務局 担当課に伝える。参考に他の市町で移住サポーターの活用が進んでいるところがあれば教えてほしい。

委員 あわら市は移住サポーターと市との連携体制がしっかりしており、永平寺町は最近サポーターも頑張っており、移住者が増えてきたと聞いている。

No.5 8 U・Iターン者の住まいや仕事探しに向けた住環境の支援

委員 自分の会社にも移住者がおり、そこからの声として、ライフラインにトラブルがあった時、どこに電話したら良いか分からないということを知る。タウンページがないので、インターネットを見て、市内の業者を検索するが、今の人は星の評価を見て判断する。でも評価が良い業者がなくどうすればよいのか困る、といったことがあるようだ。例えば「ウェルカムバッグ」を作って、そこにライフラインに関する業者の情報を入れて移住者に渡すのはどうか。登録する業者は募る必要はあるが。補助金もあれば良いと思うが、こういったサポートはより効果的だと思う。人は不便さを感じると心理的安全性が低くなる。移住を考えている人に対し、もっとサポートが必要だと思う。

事務局 嶺南の市町で、生活のサポートブックを転入者に渡しているところがあったと聞いた。そういった声や先進地を参考にしながら進めていきたい。

委員 U・Iターン者を増やすのも重要だが、市外への転出を減らすのも重要である。市外に勤めている人をつなぎとめる政策も必要だと思う。他の先進地を調べておくと良いと思う。

委員 小さい頃からのまちのイメージは大切だと思う。自分の親や祖父母が自分のまちに対し嫌いだとか、暮らしにくいなどと言っていると、子どももネガティブなイメージを持つ傾向にある。もし、今の子どもたちが家庭でそういった影響を受けているとしたら、それを変えていくには何か考えないといけない。

政策目標3 事業者の活力あふれるまち

No.6 1 既存商工業者への支援

事前意見 お土産の商品開発に関するセミナー、フォローアップ等をされているのは知っているが、実際に補助制度を活用した商品開発案件の実績がないので、周知やフォローの方法を変える検討は必要ではないのか。

事務局 令和4年度の実績はゼロであった。ご提案があったとおり、一方通行の提案ではなく、行政と企業が双方向にフォロー・連携していく必要があるので、検討していく。

No.5 9 デジタル技術の活用を支援

委員 令和5年度以降の課題と対応策のところで、「DXセミナーは難しいという意見を受け」とあるが、DXとは高度なシステムの導入とは限らない。DXは難しいからSNSのセミナーをするのではなく、他にもこういった使い方ができる等と啓発していかないといけないと思う。

委員 福井高専の学生と、うちの会社でDX化を図ろうというインターンシップを行った。結構沢山出てきて面白かった。DXは入り口が難しいという印象であるが、きっかけがあると取り入れやすい。工業大学の学生を活用してみるということでも良いきっかけになると思う。

委員 例えばセンサーの読み込みを難しいシステムを使って、というのではなく、出来る範囲で簡単に取り入れられるという事を知っていかないといけない。

No.6 0 意欲ある商工業者を支援

委員 創業支援を市が手厚くされているのは評価できる。

例えば、チャレンジショップ的なことを出来たらもっと良い。創業はハードルやリスクが高い。大仏門前町をチャレンジショップにできないかという意見が出たことがある。失敗してもダメージが少なくすると創業へのハードルが低くなり、挑戦する人も出てくるし、創業支援として良いと思う。

No.6 3 飲食事業者のニーズに応じた支援の実施

委員 空き地や空き家を活用した出店の補助について、対象は飲食店のみを対象としたポイントは良いと思うが、いつまで飲食店だけなのか。他の地域では HUB 的なところを空き家を改修して作って、成功している例もある。自由に使えて、コミュニティの場になるような場所がまちなかにあると良い。例えばシェアキッチンやシェアオフィスなど、多様な人が入ってこれるような環境があると良いと思う。この補助金について事業者の対象を広げると、活力あるまちに繋がるのではないか。

政策目標 4 活力ある農林水産業が続くまち

No.6 4 農業の担い手、新規就農者の確保・育成・支援

委員 現在、農業をやっている人のお子さんの意見を聞く機会を作ってほしい。次の世代だけを集めて声を聞くのも一つの方法だと思っている。ずっと個人で農業をしていて、農業法人に入ったのをきっかけに子どもが農業をしなくなったということも聞く。農業法人を作るのは良いが、次の世代の人が、農地や農業をどう守っていくのかということに対して声を聞きながら、農業法人をやっていないとダメだと思う。農地の集積・集約についても、後継者がどうしていくかということの主眼において考えていく必要がある。

委員 実際に私の家も、農業をやっていて夫が手伝ってはいるが、万が一父がいなくなった場合、夫がすぐにできるかといったら出来ないと思う。農地をつなげるための講習会をするのは良いと思う。

委員 米の価値が下がっている。市として農業自給率をどれだけ必要とするかも政策の一つとして数値化していかないといけないと思う。現在、農業を頑張る若手がやりたいという気持ちがあっても、地域のしきたり等でできないのは残念なので、若い意見が通るような土壌づくりをしていく必要がある。

委員 農作物を売りたいけれど、出荷するには一定の範囲をクリアしないといけない。山内委員が先ほど言ったようなチャレンジショップができるのであれば、基準に達しない物でも出荷して売れるようなしくみを作れば、どんどん良い方向につながるのではないか。若い人でも挑戦して、従来の野菜ではなく新しい物を取り入れていくような流れになると良い。

委員 たしか道の駅では、出荷できない農作物についても販売できると聞いた。鯖江のある企業は、それをブランディングして大成功しているらしい。勝山でもできる可能性はある。

No.6 6 農業用施設の長寿命化

事前意見 農業用施設の長寿命化の進捗・計画を教えてください。また、農業用施設とはど

の施設を対象としているのか。

事務局 県単土地改良補助金を活用して、農業用施設の長寿命化を図っており、令和4年度に計画し、災害復旧工事等で進捗が進まなかった4件679万円は一部完了している。また、令和5年度計画していた3件893万円についても、年内完了を目指している。農業用施設は取水施設も含んだ農業用排水路と農業用道路を対象にしている。

No.67 人材育成と広域的な取り組みによる鳥獣害対策の推進

委員 広報やチラシなどで熊の糞や痕跡を見かけたら知らせしてほしいと書いているが、熊の糞の特徴が分からないし、実際に見かけたらどこに知らせたら良いのか分からないので、そのことについても周知してほしい。

事務局 市民の通報先については、市と警察は連携しているので、まずは市役所へご連絡いただければ良い。

4つの「守る」防災減災・生活環境

政策目標1 自助・共助・公助の連携がとれた地域防災力の高いまち

No.71 災害に対する準備および体制の強化

事前意見 地区防災計画制度の研修はどこでいつ実施、または実施予定か。勝山市地域防災組織連絡会を設立し研修を実施した後の活動実績を教えてほしい。

事務局 勝山市地域防災組織連絡会については、1回目は社会福祉協議会と共催し、昨年度と今年度の災害を教訓に発災から災害ボランティアセンター設置までの各組織の役割についてのグループワークを11月末頃予定している。2回目は地区防災計画制度の研修として、本庁周辺で3月頃に開催したいと考えている。

委員 地区防災計画は市の地域防災計画の中に組み込まれているが、ほとんど機能していない。地域防災計画は行政が考えなくてはいけないが、地区防災計画は地区で考えていかないといけない。自分たちの命を自分たちで守るためには、この計画を推進していかななくてはならない。

事前意見 要支援者個別支援計画の作成はどこまですすんでいるか。

事務局 令和3年度災害対策基本法の改定に伴い、個別避難計画の策定が努力義務とされた。計画に記載する事項は、一つ目が避難行動要支援者に関する情報、二つ目が支援者に関する情報、三つ目が避難経路についてである。現在市の計画には、避難経路以外の項目について記載している。県からは市の取組みは先進的であると評価をいただいている。新たに個別支援計画を作成する予定はないが、他市町の取組みを参考に要支援者の避難経路について追加することを検討している。

委員 県が市の取組みを先進的だと評価したのは5年前のことで、評価されたポイントは要支援者から同意書を取っていることであり、計画全体のことを言っているのでは

ない。市の計画はこれまでの要支援者名簿の名前だけを変えて計画と言っているだけで、災害時に誰がどこに行ってどのように支援すればよいのか分からない、全く実効性がない計画である。勝山市の人を助けなければならないのに、支援者の名簿には、東京や大阪の親族の電話番号が書いてある。要支援者に何かあった時に連絡する名簿ではあるが、避難させるための名簿ではないので役に立たない。この計画については嶺南の方が進んでいる。

事前意見 ハザードマップの全戸配布は分かるが、各地区の避難訓練等の際に、浸水想定区域、土砂災害警戒区域について周知したとあるが、どのような周知をしたのか具体的に教えてほしい。

事務局 ハザードマップの周知については、昨年度は荒土小学校での防災講座や児童センター職員への研修会、また福井県総合防災訓練の際に昭和町区の避難訓練にあわせ、該当地区の浸水想定区域や土砂災害警戒区域について周知を行った。今年度は、はなみずきの防災研修会、芳野町7町会の避難訓練の際に、昨年度と同じように周知している。

委員 福井県総合防災訓練の際に防災士として講評したが、昭和町の災害訓練では、サイレンが鳴る前に集まってきている住民もいた。非常持出袋を持っている人はいなかった。また区長が参加者に「忙しい人は帰っても良い」と言っていた。そういった状況であったので、この時にハザードマップの周知をしたかは疑問である。避難所開設の訓練では、本来なら一般の避難者と要支援者をトリアージしなければならないのにやっていない。元から入口を分けて避難訓練をしていた。そんなことはありえない。例えば健常者であっても、災害を受けて足を怪我した場合は、要支援者に振り分けなければならない。そういったことを積み上げると、十分な訓練は出来ていないと思う。

No.7 4 空家等の減少に向けた対策の強化

事前意見 防災、防犯上危険な老朽空き家について、所有者との連絡が取れない場合や、所有者が対応を取らず周辺の住民が不安を覚える場合には、勝山市としてはどのような対応を取るのか。

事務局 土地や建物の所有者の状況確認を行うとともに、空き家特措法に基づいた措置は、例えば市が所有者に対して法律に基づく助言や指導勧告等の通知を送付することになっており、そういった措置を行っている。

No.7 5 火災予防対策の強化

事前意見 農業関係の野焼きについての対策について教えてほしい。

事務局 消防署において野外焼却行為については、消防法に基づいて周囲の建物や林野など、火災の発生、拡大の恐れがあるかないかで判断している。野焼きの炎や煙を見て火災だと119番通報された場合は、消防で現場の確認を行い、関係機関に連絡を入れている。野焼きは、廃棄物処理法の規定により、原則禁止になっている。しかし、農業

や林業漁業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の処理であれば例外とされている。野焼きを行う際には、消防署へ届出をし、消火の準備や監視、燃やす量や風向き、時間帯など周囲に配慮する必要がある。周知については、広報やホームページで掲載している。

委員 野焼きでは、おそらく農業法人がしていると思うが、法面に大量のもみをまいて火をつけている人がいる。一日で燃え尽きるような量ではないし、強風が吹くと非常に危険である。野焼きについても、消防署の方でしっかりと管理しないと、火災件数はゼロにはならない。

No.7 6 消防体制の充実

事前意見 令和4年度の消防団員数292名の年齢構成と昼間所在地状況は。

事務局 年齢構成については、20代が5名、30代が56名、40代が111名、50代が73名、60代が47名である。昼間の所在地は189名が市内、109名が市外という状況である。

委員 指標で消防団員数を290名以上確保できたから目標達成したとしているが、災害は夜間に起きるとは限らない。日中市内にいる人は189名で、実際その中でどれだけの人が本当に動けるのか。人数で達成したとしてもダメだと思う。

政策目標2 安全で快適な生活環境が維持された住みやすいまち

No.7 9 防犯体制の充実

事前意見 防犯カメラ設置支援事業補助金は敷居が高い。安価な物でもよいので各家庭で取り付けられるような補助も必要ではないか。

No.8 0 安全で快適な公共交通体系の構築

委員 高齢化が進んでいる中で、フルデマンドを進めているのは良いと思う。チョイソコや乗り合い送迎など、フルデマンドからもっと簡単に出来る形を取り組んでほしい。

No.8 2 消費者教育の推進

委員 ここでいう消費者教育とは詐欺に合わないよとといった事だと思う。ファッション業界でいうと、衣服にかかるお金は以前と比べて40%ダウンしていると言われている。消費者として、どのラインで消費していくと維持していけるのか考えていく必要がある。お金を使うという教育が少ないと思う。お金と自分たちの生活がリンクするよう、今後取り組んで行って欲しい。

政策目標3 地球にやさしく環境意識が高いまち

No.8 4 ごみの分別および減量、リサイクルを促進

事前意見 市の公式LINEアカウントでごみの分別方法をチャットで調べられる機能に、AIカメラで検索する方法があるともっと便利かもしれない。

事務局 実際にAIカメラで検索する機能を追加できるのか分からないが、便利な機能についてはどんどん追加したいと考えている。

政策目標4 安心して快適に暮らせる都市基盤が維持されたまち

No.8 8 社会資本の適切な維持管理

委員 市の公園の遊具で遊ぶ子どもを、今は親が近くで見守るようなことが一般的になってきたが、遊具の近くにベンチを勝手に置いても良いのか。

事務局 ベンチの設置について、地域の公園は地区の管理となっているので区長へご相談いただければ良いが、市が管理する都市公園については、維持や安全管理が関わってくるので、市の建設課の方へご相談いただきたい。

No.8 6 安全な水の安定共有の維持

委員 市は計画的に上下水道を整備されていると思うが、改修についても計画的に効率よく進めていただきたい。場合によっては水道料金の値上げなど、見直しをしていただいてやっていただきたい。

(2) デジタル田園都市国家構想交付金等の進捗について

No.1 勝山温泉センター「水芭蕉」滞在型観光周遊拠点整備事業

事前意見 水芭蕉の入浴者数について、R3の59,000人に対し、R4は10,000人となっており減少しているその理由は何でしょうか。

事務局 水芭蕉の入浴者数は、前年度実績から増加した人数をKPIにしています。分かりづらくて申し訳ないが、実際の入浴者数は、R3は98,101人、R4は108,893人であり、減少しているわけではありません。

No.3 ICT技術とマイナンバーを活用した窓口手続きの迅速化による住民サービスの向上事業

事前意見 市役所の市民課窓口とすこやか窓口にZoom端末を設置したとあるが、どのように活用しているのか。

事務局 Zoom端末は、来庁した市民の移動を減らすために、ワンストップ窓口となるように設置した。実際には、Zoom端末を活用することで、市民課窓口で、すこやか窓口での業務である健康、介護保険、福祉関連の相談業務ができるようになった。

No.3 ICT技術とマイナンバーを活用した窓口手続きの迅速化による住民サービスの向上事業

事前意見 市民課窓口以外にキオスク端末を設置することを検討しているのか。

事務局 市内のコンビニでも、市発行の証明書が取得できるので、そちらを活用してもらえたらと思う。

No.3 ICT技術とマイナンバーを活用した窓口手続きの迅速化による住民サービスの向上事業

委員 キオスク端末について、コンビニの端末で発行しようと思ったが、表示が分かりにくくて、入り口にも行けなかった。市の広報で周知した方が良いと思う。

事務局 状況について確認して、周知方法について検討したい。

No.3 ICT技術とマイナンバーを活用した窓口手続きの迅速化による住民サービスの向上事業

事前意見 「行政協力員制度の業務見直し、行政区の新しいあり方を検討する」にあたり、デジタル田園都市国家構想交付金の活用を検討してはいかがでしょうか。

事務局 地域での生活が便利になるようなデジタルを活用した取組について、全国の先行事例を研究し当市でも活用できるか検討したい。

No.4 ICT技術を活用した生活環境の保全による住民サービスの向上事業

事前意見 行政が考えるICT化が必要な業務、市民生活の利便性が向上するICT化はどのような業務なのか。検討しているものがあればご教授願いたい。

事務局 デジタル田園都市国家構想交付金によるデジタルを活用した取組について、事例集や特設ホームページで公開している。例えば、書かない窓口により申請書の記入が不要になるサービス、住民向けポータルによる情報発信、公共施設のオンライン予約、母子健康手帳のアプリ化、AIを活用したオンデマンド交通など、多様な分野のサービスがある。当市でも実現可能なサービスがあるのか検討していきたい。

3. 閉会